

8.9 環境との調和や景観に配慮した排水施設の留意事項

湿地を生息地とする両生類、魚類は、森林、湿原の乾燥化や河川の汚濁等が、生息条件に大きな影響を与える。このため、農道の建設に当たっては、湿原や湖沼、沢等を埋め立ててしまわないこと、及びその地域の水環境（水質、水量等）に悪影響を与えないことが必要である。特に重要なのは、農道の設置によって両生類の採餌場所と産卵場所が分断されないようにすることである。

なお、貴重種等が生息・生育している水田においても排水施設の集水範囲の変更による生息・生育環境への影響が考えられる場合は、同様の配慮を検討する。

また、山間部を通過する農道では、側溝に転落した両生類等の小動物（カエル、サンショウウオ、ネズミ等）がはい上がれず、側溝の中で死亡していることが多い。このため、側溝や柵の形態は、小動物がはい上がれるものを検討する。傾斜面は、**図-8.9.1**のとおり、小動物が脱出しやすいように角度は 45° 以下とし、また粗面とすることが望ましい。浸透性排水路・排水柵は、植生・地中生態の保全、地下水涵養の観点から有効な手法であるが、排水量や流末状況等の現場条件を考慮し、透水性能低下等の耐久性や経済性を検討した上で採用を検討する。

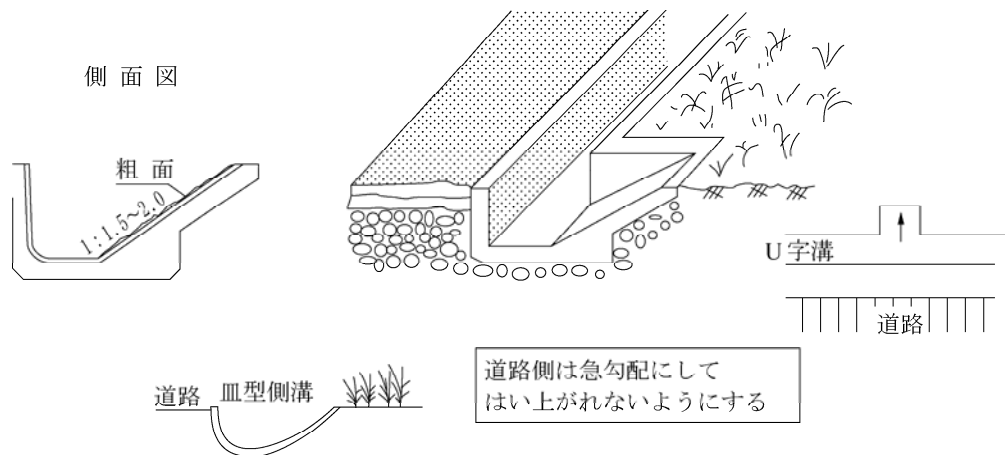


図-8.9.1 小動物に配慮した側溝の例（1）

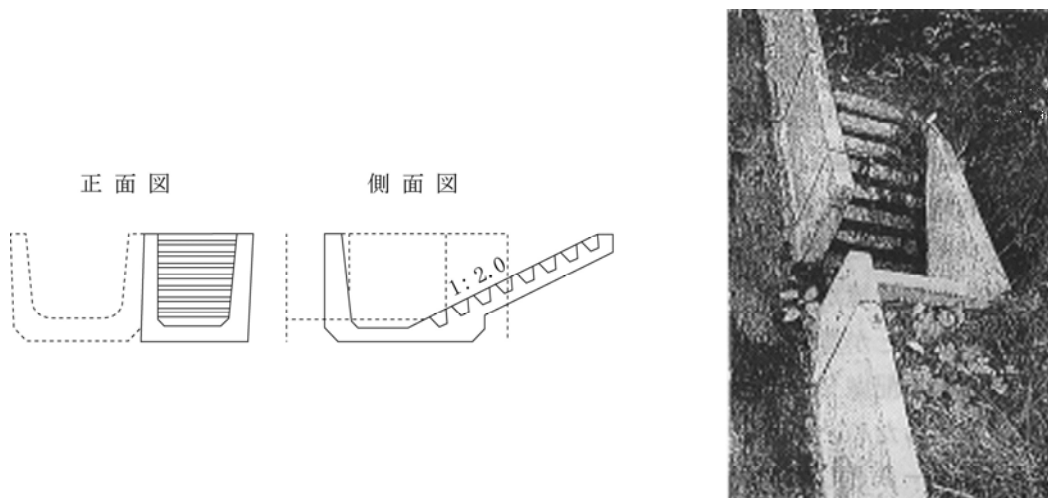
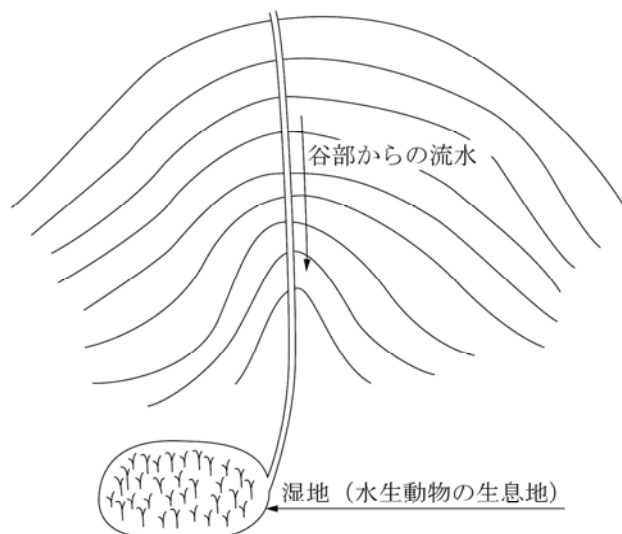
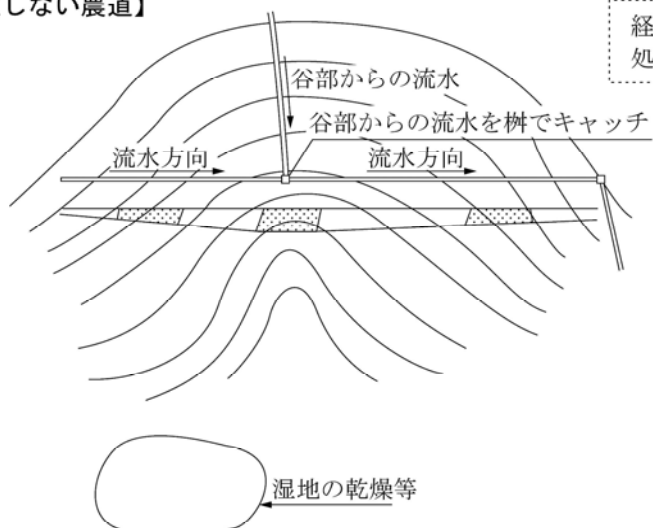


図-8.9.2 小動物に配慮した側溝の例（2）（沖縄県）

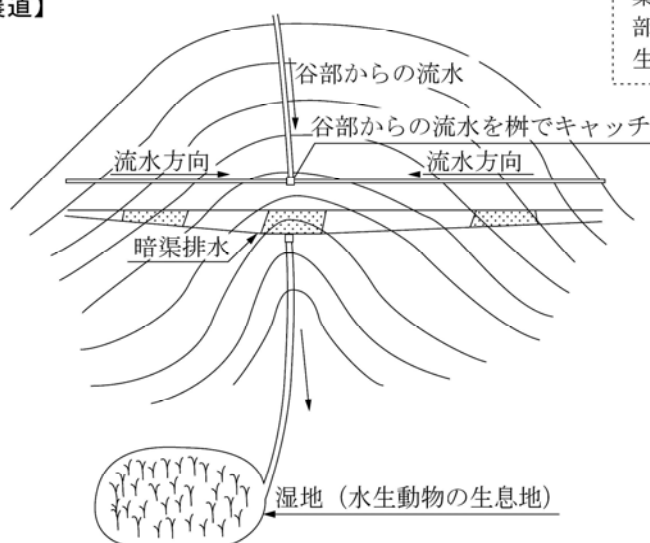
【現 況】



【集水域を考慮しない農道】



【環境調和の農道】

図-8.9.3 集水域を考慮した排水施設の例⁴⁾

引用・参考文献

- 1) 農林水産省農村振興局：土地改良事業計画設計基準・計画「農道」（令和6年3月）
- 2) (公社)日本道路協会：道路土工要綱（平成21年6月）
- 3) 森北出版：応用水文統計学（昭和45年5月）
- 4) 農林水産省農村振興局：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き（第2編）（平成15年3月）
- 5) (公社)日本道路協会：道路橋示方書・同解説（Ⅰ共通編）（平成29年11月）
- 6) (公社)日本道路協会：道路トンネル技術基準（構造編）・同解説（平成15年11月）
- 7) (公社)日本道路協会：道路土工－カルバート工指針（平成22年3月）
- 8) (公社)日本道路協会：道路土工－擁壁工指針（平成24年7月）
- 9) (公社)日本道路協会：道路土工－盛土工指針（平成22年4月）
- 10) (公社)日本道路協会：道路土工－切土工・斜面安定工指針（平成21年6月）